KONKO SHIMBUN SPECIAL

神さま ありがとう

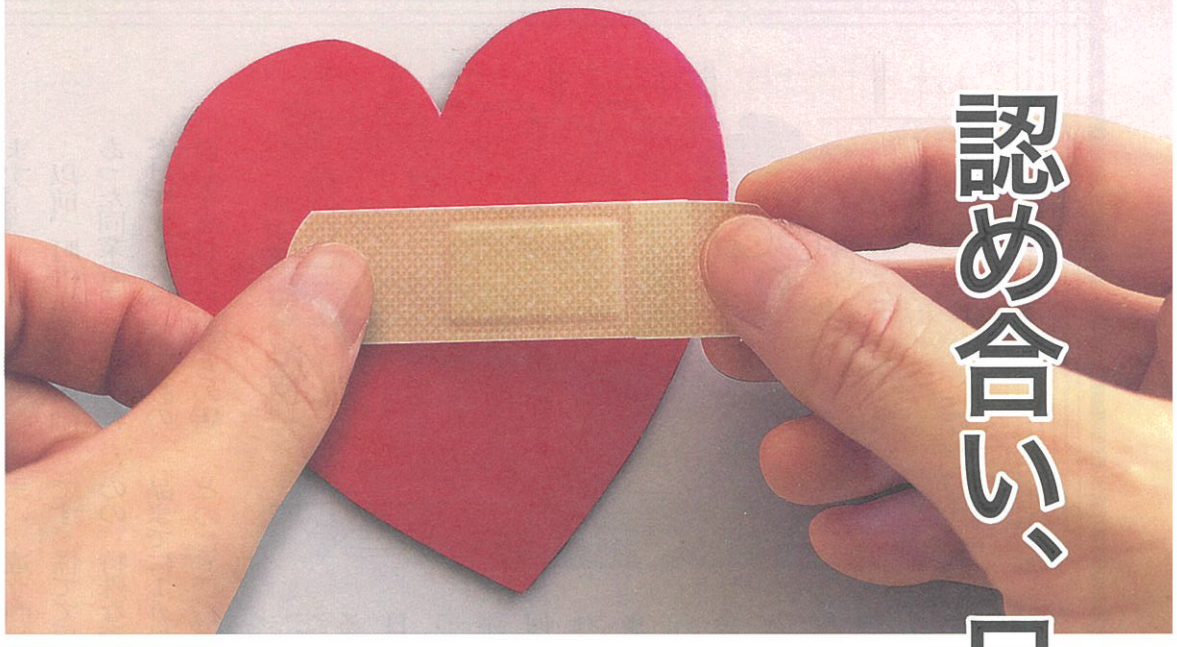
金光教（こんこうきょう）

本部
〒719−0111 岡山県浅口市金光町大谷320
TEL 0865−42−3111（代）
FAX 0865−42−4419
金光教ホームページ（QRコードは⇨）
http://www.konkokyo.or.jp/

金光教宣言

大いなる天地に生かされる人間として
すべてのいのちを認め、尊び
神と人、人と人、人と万物が
あいよかけよで共に生きる世界を実現する

「弱さ」認めて生まれるつながり



認め合い、足し合って共に生きる

困った状況に陥ったのは自己責任だと指さされるような今の社会の中で、「自分自身が強くあらねばならない。人に迷惑をかけないよう自立しなければならない」という思いに駆られ、生きづらさを抱える若者が増えているようだ。

辻井篤生（あつお）（金光教東京学生寮寮監／和歌山県勝浦教会）

寮生が「ひきこもり」に

私が金光教東京学生寮の寮監に就任した1990年ごろから、「生きづらさ」「心の病」といった言葉をよく耳にするようになり、2000年ごろからは、当学生寮でも精神的な不安を抱え、「ひきこもり」になる寮生が現れ始めた。心に変調を来すのは、非常に真面目で責任感の強い子が多い印象がある。周りの期待に応えようと、私や親の前では気丈に振る舞うので、学校の友人や先生から本人の様子を聞いて、最近休みがちであることを初めて知ることも多い。

10年ほど前、ある寮生が大学に通えなくなって部屋にこもりがちになり、心配した親御さんが、寮を訪れたことがあった。その寮生も、とても優秀で物事を完璧にこなそうとするタイプだった。親御さんは、優秀だったわが子が学校に行けなくなった事実が、信じられない様子だった。学校や本人に原因があるのではないかと探り、とにかく一度、本人を実家に帰して教育し直したいと言った。

「神様の物差し」で見る

しかし、私は連れて帰ると、今の状態が長期化する恐れがあると思い、まずは焦らずに様子を見てほしいとお願いした。その上で、私の娘が不登校になった経験を話し、子どもに過度な期待を寄せず、世間体やプライドといった「人間の物差し」をいったん脇に置いて、「神様の物差し」で事柄を見詰め直し、本人と向き合ってほしいと伝えた。

人間の物差しには、「優／劣」「大／小」「できる／できない」といった価値の目盛りが付いているので、自分の価値観に合わないものを責めたり、排除しようとしてしまう。一方、神様の物差しは目盛りがないので、比較したり、断定的な評価で見ることもない。相手の存在そのものをありのまま認め、大切にしようとする。私は、この話を常々、寮生たちにも語ってきていた。

その寮生本人とは、負担にならないように適度な距離を取って見守りながら、親や周りの期待に応えようとしなくてもいいのだと伝えた。そして、神様に毎日ご祈念しながら、本音を語ってもらえるよう待った。その後、親御さんも無条件にわが子を受け入れようと努めたそうだ。本人もやがて本当の気持ちを語ってくれるようになり、1年半後には快方に向かった。

世話になり通しの存在

初めて親元を離れて入寮する学生たちは、「自立」しようと意気込んでくる。その意気込みをほぐし、肩の力を抜いてもらうために、人は皆、生まれてすぐは自分では何もできず、食事に排せつ、睡眠も周りの人のお世話を必要としていた事実を語ってきた。そして、自分の弱さを認めて、他人に頼ることができるのが、本来の人間の姿だと話し、人間はそもそも世話になりながら生きる存在であり、自分の力だけで生きている人間は一人もいないことを伝える。

「自立した強い人間でなければならない」という強い思い込みを持ってしまうと、自分の弱さが許せなくなる。その不寛容は、他者の弱さに対する不寛容につながり、社会的弱者などへのバッシングや暴力に発展しかねない。確かに、自分自身の弱さに向き合うのは簡単ではないだろう。自己責任を問われる社会にいるからなおさらだ。

しかし、「弱さ」を認め合えるからこそ、人は足りない所を足し合って生きていくことができる。そうやって「弱さ」でつながり合える関係がある。天地の恵みにお世話になり通しの人間の姿を知り、共に支え合い、共に育っていく金光教の信心の大切さを改めて思わせられる。

金光教の教祖の教え

ある人が、子供の数が多くそれぞれ性格が違うので困っているとお願いした。金光様はその人に、

「もし、五本の指がみな同じ長さでそろっていては、物をつかむことができない。長いのや短いのがあるので物がつかめる。それぞれ性格が違うので、お役に立てるのである」

と教えられた。